



理事長年頭挨拶

愛知県バドミントン協会
理事長 山田 順一郎



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、良い年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は本会への多大なるご協力を賜り、まことにありがとうございました。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年は8月に全日本教職員大会、11月に全日本シニア大会、12月にS/Jリーグ2018刈谷大会を本会が主管し、すべての大会が成功裏の内に終了できましたことは、ひとえに皆様のご協力の賜物だと、心より感謝申し上げます。

さて、昨年の日本のバドミントン界はユーバー杯優勝、トマス杯準優勝、世界選手権、アジア大会での金メダルの獲得など、日本代表選手の活躍で大いにバドミントンフィーバーの年となりました。

世界がうらやむほどの活躍をしている日本代表チームの黄金時代は、どのようにして生まれたかを考えてみますと、私はその要因は3つあると思います。ひとつには、パク・ジュポンコーチの招聘。もうひとつは、ナショナルトレーニングセンターの開設。そして最後は、選手の心にチームジャパンの気合いが生まれたことではないかと思います。

本会に目を向けてみると、ジュニアナショナルに、全国で13名のうち、5名を送り込んでいることや、昨年のインターハイで名経大市郷高校が女子団体で3位、全国中学校大会で久慈菜々選手が女子シングルスで準優勝するなど、その機運の高まりは黄金期を迎えていた現在の日本バドミントン代表チームの創成期に似たものがあります。そこで本県においても、ジュニアの勢いをさらに増し、チーム愛知として一層強化するために、愛知県バドミントンナショナルセンターの開設を構想しているところであります。実現に向け、皆様のご協力を願ってやみません。

最後になりましたが、本年が皆様におかれまして、倍旧のエンジョイバドミントンの年になりますことを心よりお祈り申し上げます。

第133回 中日楯争奪平成30年度秋季愛知県新人バドミントン大会

8月26日、9月1日、9日の3日間にわたり4会場、延べ654名の参加者により熱戦が繰り広げられた。最終日は各種目の優勝を目指した戦いで、枇杷島スポーツセンターは熱気に包まれた。その結果を決勝戦が行われた時間の早い順番に紹介する。

女子ダブルス

圧倒的な力で奥山寧々・中根緋月組(豊川高校)が優勝

決勝は、どちらも準決勝を同じように勝ち上がった、即ち第1ゲームを簡単に取ったものの第2ゲームは大接戦となり、そのゲームを振り切ってストレート勝ちした2組、豊川高校組と依田史奈(Rise BC)・井口留美子(PEACOCK)組の対戦となった。

決勝の模様を一言でいうと、オーソドックスなダブルスが繰り広



(左) 奥山寧々選手 (右) 中根緋月選手

げられたということになるが、攻めの度合いが多く、且つミスが少なかった豊川高校組が徐々に点差を広げてゆき、21-15、21-13で攻め切り、押し切ったという試合であった。

豊川高校組が、サーブ、レシーブに臨む際に、元気に声を揃えて気合いを入れていたのが、印象的であった。

女子シングルス ダブルス優勝ペアがシングルスの決勝で対決、中根が接戦を制す

女子ダブルス決勝が終わった時点で、女子シングルスはまだベスト8が残っている状況であった。その中に残っていたダブルス優勝の豊川高校の二人は、その後も勝ち進み、準決勝では社会人、大学生もいる中を勝ち上がってきた中学生をお互いに撃破し、決勝で相まみえることとなった。

もともと「二人で絶対決勝戦をやろう」と言いながら戦ってきたとのことで、有言実行となった訳だ。お互い手の内は知り尽くしていることもあってか、ファイナルゲームにもつれ込んだ試合は大接戦となり、19-19を経てマッチポイントを握んだ中根のスマッシュに対する奥山のレシーブが僅かにサイドを割り、ゲームオーバーとなった。「日頃は後塵を拝することが多かった」という中根の「勝ちたい」という気持ちが、今回は僅かに勝ったのであろうか。今後も競い合って、共に成長して欲しい。

男子ダブルス 竹内誠一郎・古賀覚士組(SMILE)が戦い方を修正して勝利

最終日、8組が勝ち残っていた男子ダブルスで竹内・古賀組は準々決勝、準決勝を少し競りはしたもののストレートで勝ち上がり決勝を迎えた。しかしながら決勝は、日下俊(PEACOCK)・谷川隼也(SMAGAN)組に19-21で第1ゲームを落とす。奮起して第2ゲームは21-13で取りファイナルゲームとなるも、再び動きの良くなつた日下・谷川組が11-7とリードしてチェンジエンズ。

ここから竹内・古賀組は「我慢」を合言葉に攻撃重視をリセットし、無理なスマッシュは打たず「ミスをしないぞ戦法」で立て直しを図った結果、一気に逆転し20-17でマッチポイントを迎える。19点まで追い上げられたものの、最後は逃げ切り栄冠をつかんだ。確かにミスの少ない白熱した試合であった。

優勝の感想を聞くと、「とにかく嬉しい」の一言であった。



(左) 竹内誠一郎選手 (右) 古賀覚士選手

男子シングルス 田中大志(日本福祉大)が父の教えを心にプレイして栄冠を勝ち取る

優勝した田中も準優勝となった神之田彗斗(久野金属)も決勝までの4試合を全てファイナルゲームを戦い抜いての決勝であった。お互い非常に疲れていたと思われるが、「スタミナには自信がある」と言い切る田中の方が体力面で勝っていたようだ。21-10、21-15のストレートで、「メチャメチャ狙っていた」という優勝を手に入れた。



田中大志選手

勝因を聞くと、「あきらめなかつたこと」との即答が。実は準決勝のファイナルゲームを6-15とリードされた時に、父(豊川高校の田中先生)の教える「あきらめないこと」を心の糧に頑張ったとのこと。結果、逆転勝ち。改めて父から受けた“しごき”にも感謝したそうである。

本格的にバドミントンを始めてまだ5年だそうで、今後とも、何事にもあきらめず励み、より一層の高みを狙ってもらいたい。

(広報副委員長 天埜良彦)

第35回 全日本シニアバドミントン選手権大会開催

— 4年ぶりに6市(刈谷市、豊田市、安城市、大府市、知多市、西尾市)で開催 —



平成30年11月22日(木)から25日(日)、出場者数3,913名を迎え、国内バドミントン界史上最大規模の大会が東尾張地域を中心に9会場(130コート)で開催され、熱戦が繰り広げられました。今大会より公開競技として80歳以上のクラスが新設され、30歳から5歳刻みの11クラス55種目に増加しました。このため、開催地市町村連盟と県協会の関係者が一体となった約1,400名が、競技・審判役員として各会場に分かれて運営に当りました。

初日は、刈谷市のシャインズにて開会式・レセプションが、日本バドミントン協会の綿貫会長始め、来賓・選手など約130名の参加のもと賑やかに開催されました。選手の皆さんには顔なじみの他県の選手を見つけ、旧交を温め、また互いの健闘を誓い合っていました。



競技初日、2日目は男女单・複、混合の各クラスを各会場で行い、最終日の25日はベスト8に残った選手がメイン会場であるウイングアリーナ刈谷に集結し、準決勝、決勝が行われました。選手の中にはテーピングをしたり、心なしか足を引きずっている人もおり、ここに至るまでの試合がいかに激闘であったかが瞬時に分かるが、一旦「ラブオールプレイ」とコールされると何事もないように流れるか、そして機敏かつ躍動感あふれる動きとなり、ある種の感動を覚えました。



ベスト8に勝ち残った愛知県勢(男女シングルス16人、ダブルス11組、ミックス6組)も他県の選手と同じように頂点を目指し、最後まで力を振り絞って戦いました。男子65歳以上のクラスで青山伸幸がシングルス優勝、ダブルスでも浅見初男(東京)と組んで単複連覇を達成。同様に女子では山本しづ子が75歳以上のクラスで単と複では中村聰子(高知)と組んで優勝という輝かしい功績を残しました。このほか女子ダブルス30歳以上のクラスで大滝綾・横関彩(千葉)組が、ミックスダブルスでは30歳以上のクラスで木村彩・小林徹太郎(北海道)組、40歳以上のクラスで磯貝健太郎・百丸恭子組、55歳以上のクラスで山西智佳子・神代和久(富山)組が優勝しました。

こうして4日間に亘る本大会は盛大に、かつ成功裏に終了しました。この大会を陰で支えてくださった役員始め関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

(広報委員長 岩田 崇)

3位入賞者

30MS：中口竜郎、30WS：市川新子、間瀬さやか、
30WD：大草結花・市川新子組、30XD：大滝涼太・
大滝綾組、35WS：安福裕子、40MS：源口哲史、
45WS：中林明子、60MS：青山忠雄、60WS：水野良子、
70WS：戸田眞澄、75WD：道家幸・的場幸枝(兵庫)組

ベスト8

30WS：大草結花、50MD：松原伸幸・岡本哲哉組、60WD：
門間由美子・伊東ひとみ(石川)組、65WS：倉谷昌子、65WD：
井上博子・倉谷昌子組、65XD：武田正雄・武田京子組、70MD：
武田正雄・杉谷義明(大阪)、70WD：末永加代子・矢野節子(東京)組、
75WS：菱田和枝・道家幸、75XD：三浦和子・堀幸之助(神奈川)組、
80MS：山本敏夫、80MD：山本敏夫・齋郷秀一(東京)



末岡熙章会長 旭日中綬章受章お祝い

末岡熙章会長におかれましては、秋の叙勲で私学振興功労に対する功績により、旭日中綬章を受章されました。誠におめでとうございます。

故後藤淳前会長が平成16年に同章を受章されて以来で、私共にとりましても喜びがひとしおでございます。

このたびの叙勲は、教育界発展のための永年のご尽力に対しての叙勲でございますが、本会会長に就任されてからの10年間は、教育界に対するご尽力に勝るとも劣らない御指導をいただいた賜物であると存じ、会員一同心から敬意を表し、お祝い申し上げます。

今後もご健康に留意され、なお一層のご活躍をお祈りしますとともに、私共への更なるご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

このたびは誠におめでとうございます。

(愛知県バドミントン協会 理事長 山田順一郎)



明日へ駆ける



今号は、高校、中学校の新人戦をお伝えします。

平成30年度愛知県高等学校新人体育大会バドミントン競技

10月27日、28日、11月3日に刈谷市体育館他で開催された。

男子団体決勝は、市邨vs名電。市邨は、1Sが1ゲームを落としたのみで、ストレートで優勝を決めた。女子団体決勝は、市邨vs城西。どの試合も接戦で長いラリーが続き、2Dを城西が取ったが、市邨が3-1で優勝を決めた。市邨の主将は、優勝の喜びとともに次への意気込みを次のように語った。

「団体は全国選抜でベスト8、個人は単複ともに東海1位通過、全国選抜でベスト8を目指に頑張ります」(男子・夏目)

「団体は全国選抜でベスト4、個人は東海1位通過、全国選抜でベスト8を目指に頑張ります」(女子・舟橋)

団体は3位までが東海大会へ、優勝の市邨は選抜出場が決定済だ。個人は2位までが東海大会へ、そ



市邨男子



市邨女子

してその上位3本が選抜への切符を獲得する。インターハイ出場経験もある選手が多い。愛知県勢の全国での活躍に期待したい。

(広報委員 上出美佳)

	男子			女子		
	団体	複	単	団体	複	単
優勝	名経大市邨	河辺・志賀(市邨)	夏目(市邨)	名経大市邨	舟橋・佐藤(市邨)	舟橋(市邨)



第42回 愛知県中学生新人バドミントン大会

11月3、4日に大府市民体育館で開催されました。夏の大会後、2年生が中心となる新チームでの初の県大会となります。初回戦突破を目指す者、優勝だけを考えて戦う者、それぞれの目指す場所は違えど、1点のためにシャトルを追いかける姿は、皆同様に熱い気持ちを感じ取ることができました。来年の春の大会、その後の夏の総体に向けて仲間とともに切磋琢磨し、県内だけでなく、全国の舞台での活躍も期待したいと思います。

	男子	女子
シングルス優勝	富田 万南斗(市邨)	河辺 美颯(市邨)
ダブルス優勝	富田 万南斗・永森 一輝(市邨)	河辺 美颯・中上 未来(市邨)



左から中上、河辺、永森、富田

(広報委員 石井久伸)

大府
JR 大府駅西口徒歩 8 分

バドミントンプロショップ
リーダース グループ
SINCE1979

名古屋一社
地下鉄一社南出口より徒歩 2 分

はいーあっぷ
代表 中口直人
TEL(0562)44-5529 FAX(0562)44-5594

(有)リーダース
代表取締役 斎田修光
TEL・FAX(052)703-2767

第73回 国民体育大会 福井国体大会

日時 10月5日(金)～8日(月) 勝山市ジオアリーナ

少年女子(ベスト16)――

勝負の北海道戦では、第1複が選抜・IH3位の強豪ペアと対戦。終始リードを許し敗戦となった。

愛知	2	—	0	新潟	愛知	0	—	2	北海道
舟橋 酒井	2	21-11 19-21 21-13	1	五十嵐 佐藤	舟橋 酒井	0	17-21 10-21	2	佐藤 内山
県	2	21-16 21- 9	0	坂井	県	0	13-21 16-21	2	村田

成年男子(ベスト16)――

富山戦では、ナショナルA代表選手とそれぞれ対戦となった。元日本代表平田選手の熟練されたプレーであと1歩まで追い詰めたが敗戦となった。

愛知	2	—	0	佐賀	愛知	0	—	2	富山
平田 松村	2	21-13 21-13	0	川原 野田	平田 松村	1	12-21 21-19 16- 9	2	保木 小林
松本	2	15-21 21-15 21- 9	0	川原	松本	0	12-21 13-21	2	常山

少年男子(ベスト16)――

勝負の宮崎戦では、強豪の選抜・IH3位の日章学園率いるメンバーと対戦となった。第1複は1時間を超える熱戦を演じたが最後は力尽きた。

愛知	0	—	2	新潟
青山 西塚	1	21-15 26-28 21-23	2	小川 樋口
中林	0	20-22 15-21	2	小川



国体代表メンバー

〈まとめ〉

次年度に向けて、カテゴリー別のオール愛知強化練習の頻度を上げて底上げを図り、少年種別の本国体出場・上位入賞を目指していきたい。

また成年については、S/Jリーグチームと緊密に連携をとり近年遠ざかっている入賞を目指していきたい。

(選手強化委員長 馬場直樹)

▶▶▶ スペシャルオリンピックスのバド競技開催

スペシャルオリンピックス日本 夏季ナショナルゲームが9月22日～24日に愛知県で開催され、いくつかの種目のうちバドミントン競技は刈谷市で行われました。

▶ スペシャルオリンピックスって何? 特徴は?

知的障害のある人が、組織的にスポーツに取り組む活動全般を言います。

出場者を指す「アスリート」の障害は様々ですが、できるだけ同じ位の競技能力の人同士が競えるように「ディビジョンニング」というグループ分けをして競技します。4年に一度世界大会が開かれ、その予選を兼ねた全国大会(今回の愛知大会)も同じように開催されます。

▶ 何故、複数形なの?

大会だけではなく、日常のトレーニングも含めた関わる全員が大切との考えから、「オリンピックス」と複数形になっています。

表彰式は参加者全員が表彰台に上がり、皆で競技をやりぬいた栄誉を称えます。成績上位者にはメダルが、その他の人にはリボンが贈られます。

ああ、これがスペシャルオリンピックスなんですね。

▶ 会場の雰囲気は?

会場のウイングアリーナ刈谷には、全国の15地区から36名のアスリートとそれを支える30名の役員・コーチが集結し、運営を支える刈谷市バドミントン協会員や多くのボランティアで明るく元気な雰囲気の中、大会は行われました。

アスリート達は、シングルスで行われた試合よりも、障害のない人と組んで行ったダブルス(ユニファイドスポーツ)の方が楽し気で生き生きしていたように感じられました。

皆さんも機会が有りましたらボランティアでもコーチでも参加してみて下さい。



愛知のホープ

いとうなおか
伊藤菜央加(師勝ジュニア)



師勝ジュニア5年、伊藤菜央加選手を紹介します。

5歳(年中)の時、小学1年の姉について練習に来たことが、バドミントンを始めるきっかけでした。何をやっても、年中とは思えないほど運動神経が良く、小学生低学年の練習を普通にこなしていたことを思い出します。笑顔がかわいい、運動センスのある子でした。

小学1年から、大会や遠征にも参加。めきめきと力を付けていきました。速さ、精密さに優れ、そして何より考えることが出来る子でした。バドミントンだけではなく、縄跳び、マラソン、ダッシュと、何をやらせても手を抜くことがなく、上級生にぴったりとついていきます。負けることが嫌いながんばり屋さんです。

ダブルスのペアにも恵まれ、小学3年で東海1位、小学4年では全国1位という素晴らしい成績をあげました。厳しい練習では決して泣くことがなかった子でしたので、優勝が決まった瞬間の涙には感動しました。

今年度の第34回全国若葉カップでは、5年シングルス、6年ダブルスの両方で活躍し、師勝ジュニア初の3位入賞に貢献しました。頼もしい存在です。

2018年、U13のナショナルメンバーに選考され、常にトップであるという意識を持って練習に臨んでいます。また、練習だけでなく、準備、片付け等も積極的にやっています。これからもトップ選手として皆の手本になって、心身共に成長して欲しいと思います。

(師勝ジュニア 葛城祥江)

フトワーク

此の欄は、連載物のコーナーとして県内各チームの紹介やその他の記事を皆さんに続けてお届けするコーナーです。

今回は

豊川高校男子バドミントン部

を紹介します。

豊川高校男子バドミントン部は3年13名、2年7名、1年13名で、「常に全力」を合言葉に日本一元気な声を出して練習に取り組んでいます。亀が兎を追い越すように、初心者や小中学生時代に余り力を発揮できなかった者が、経験者や今まで勝てなかった選手を倒すことを目指しています。幼虫だった者はサナギを経てモスラにまで、カメだった者がガメラにまで、それぞれ成長を続け、化けていくのです。



直近の中日楯男子シングルスで、本校出身者の中嶋慎太郎(名城大学)、直里冬衣(豊川高校)、田中大志(日本福祉大学)と3季連続で優勝を勝ち取ったことは、この上ない喜びです。

世の中では、価値観も多様化し、善悪の区別が曖昧になり「強ければ何をやっても許される」という、ずるい輩、鉄面皮な輩がのさばっているように見受けられます。

元気の良い挨拶、ハキハキとした返事、大きな声で行う主審のコール。コート上ではシャウト効果を理解した上での声出しと諦めない姿勢。また、本部席、審判員やメンバー外の苦労を理解したり、開会式では素早く整列し、話を静かに聞くことも大切にしています。

バドミントンのルールと同様、学校・社会生活にも守るべきルールや慣習があることを教えていくことが人間形成の一環である部活動の役割と考えています。日々プレーする中で、バドミントンができるありがたさ、サポートしてくれる親や周囲への感謝を忘れないことも大切だと指導しています。楽しさ、素晴らしさを伝え、バドミントン好きの生徒を育てたいと思っています。

(監督 田中章裕)

連盟NEWS

● S/JリーグⅡ2018で東海興業が優勝! ●

11月15日～18日、茨城県石岡市で開催されたS/JリーグⅡ（旧日本リーグ）男子の部で、東海興業チームが全勝で優勝を果たし、S/Jリーグ挑戦権を勝ち取った。

2複1単で男女8チームが戦うリーグ戦を、森田浩平／間瀬亮介、武山修三／嘉村昌俊のダブルスと松本アキラのシングルスの布陣で臨み、優勝候補筆頭と目されていた丸杉（岐阜県）を2-1で撃破するなど各選手が安定した力を発揮し念願の優勝を果たした。最優秀選手賞を武山／嘉村が受賞。

2月に実施されるS/Jリーグ昇格をかけた入替戦に臨むこととなった。ジェイテクトに続くS/Jリーグ昇格に期待したい。

愛知県から参戦したチームの成績は次のとおり。

	男子の部	女子の部
優勝	東海興業	6位 東海興業
3位	大同特殊鋼	8位 トヨタ自動車

（愛知県実業団連盟 理事長 井上龍）

市町村だより

豊田市バドミントン協会

◆第32回 市民バドミントン大会(秋季団体戦)

9月2日(日) スカイホール豊田

男子優勝	女子優勝
G.spank!A	毘沙門天

◆第22回 市民バドミントン大会(混合団体戦)

10月14日(日) 豊田市西部体育館

混合団体優勝
G.spank!A

◆第41回 市民バドミントン大会(選手権)

11月11日(日) 豊田市西部体育館

男子A優勝	女子A優勝
齋藤・吉村(G.spank!)	真田・岩間(G.spank!)

テニス・バドミントン専門店

ラケット
ショップ

NONAKA

名古屋市千種区内山町3丁目28番2号
TEL <052> 741-3537

一宮バドミントン協会

◆一宮秋季市民大会

11月11日(日)一宮市総合体育館(DIADORAアリーナ、いちい信金アリーナB)にて開催されました。参加者210ペア。朝晩と日中の気温差が大きく、多くの参加者がシャトルの飛び具合に苦戦していました。

男子1部優勝者コメント

「クラブ個人戦で準優勝したペアだったので、負けられないプレッシャーがありました」

女子1部優勝者コメント

「たくさん試合があって疲れましたが、楽しくできました」

男子	優勝	準優勝	女子	優勝	準優勝
1部	井上 大口	高尾 小竹	1部	刈谷 藤野	尾形 小立
2部	Aゾーン	矢木野 林	Aゾーン	島田 大宅	深見 沖野
	Bゾーン	小寺 金森	Bゾーン	山根 杉江	岩永 権田
3部	3部	石田 伊佐治	Aゾーン	高橋 伊藤	中村 信田
	シニア	中川 家壽田	Bゾーン	伊藤 佐々	鈴木 袴田
			シニア	吉田 平田	栗林 水谷

稻沢市バドミントン協会

最近、多くの若いバドミントン選手が世界的に活躍し、小中学生のバドミントンへの関心が高まっています。当市でもジュニアのクラブやスポーツ少年団等でバドミントンを楽しむ児童生徒が多くなってきました。協会においてもこの流れを支援していきたいと考えています。

その一環として、来年1月27日(日)に、本協会所属の大里東バドミントン部が主催する「稻沢市ジュニアバドミントンビギナーズ大会」を後援します。本大会は、試合機会の少ない技量の低い児童生徒でも気軽に楽しめるものです。これをプレ大会として、一旦撤退した協会主催のジュニア大会復活も視野に入れ、進めていきたいと考えています。(稻沢市バドミントン協会HPに要項掲載中)

スポーツごころを世界に。

 YONEX

日進バドミントン連盟

◆日進レディースの活動状況



現在50名が在籍し、週3回活動しています。日頃の練習の他に、年6回、他地区を招いての合同練習会、毎年11月には、「日進レディースバドミントン大会」を開催しています。

若い力、ベテランの力、秘めたる力(?)を試合で十分発揮できるよう、それぞれに目標は違いますが、元気で仲良く、みんなでバドミントンを楽しんでいます。今後とも日進レディースをよろしくお願い致します。

知多市体育協会バドミントン連盟

◆第42回全知多バドミントン大会

平成30年11月3日(土)、4日(日)の2日間に亘り、メディアス体育館ちたで開催。1日目は高校男女団体戦に35チーム240名、2日目の一般男女個人戦はダブルスを7種目行い、106組212名で、合計452名の参加で熱戦を繰り広げた。結果は次の通り。

	優勝	準優勝
高校男子団体	半田東高校A	半田工業高校A
高校女子団体	大府東高校A	半田高校A
男子ダブルス1部	近藤 峻矢・大田 唯斗 (美浜町)	森田 貴士・貝原 健太郎 (知多市)
男子ダブルス2部	浅井 貴大・井上 智晴 (知多市)	今井 清隆・二宮 俊 (東海市)
男子ダブルス3部	山本 真吾・一之瀬 秀人 (大府市)	久保田 蓮也・花井 唯斗 (大府市)
混合ダブルス	東海林 稔多雄・森田 祐美子 (常滑市)	
女子ダブルス2部	松浦 麻里恵・外山 真理子 (東浦市)	岡本 草慧子・宮崎 絵梨香 (知多市)
女子ダブルス3部	塙田 愛海・田中 友萌 (半田市)	平尾 優奈・森田 優衣 (知多市)

勝つための本物

GOSEN
www.gosen.jp

株式会社ゴーセン 大阪本社/TEL.06-7175-7115 FAX.06-6538-8238

審判連載



「やむを得ない状況への対処について」

水野 慶介

日本人選手が大いに活躍した世界選手権大会で、天井から水滴が落ちてきたという報道がありました。そのような状況にはどのように対処をすればよいのでしょうか。

競技規則の大会運営規定第27条に停電、火災、地震などやむを得ない事情で競技の続行が不可能になった場合の処理方法が明記されています。

「一定時間を経過すれば競技の続行が可能な場合は、そのままのスコアで再開し、当日の続行が不可能な場合は、試合を中止とし、後日最初から競技を行う」とあります。

どのように再開するのかは、レフェリーの指示によりますが、慌てず、後に中断時間が報告できるよう、時間をスコアシートに記入しておくことも大切です。

編集後記



皆さん、「スペシャルオリンピックス(通称SO)」って知っていました?

私は取材を担当することになり、慌てて調べました。つたない記事ですがスポーツには、バドミントンには、知的障害者のアスリートに笑顔と喜びを与える力もあることを皆さんにも知っていただけたらと思ってます。もちろん自分のプレーでも頑張りましょうね。

(広報副委員長 天埜良彦)

連絡 投稿

〒452-0008 清須市西枇杷島町地領 1-9-9
広報委員長 岩田 崇
TEL (052) 501-2602

愛知県バドミントン協会のホームページアドレス
<http://www.badminton-aichi.com/>
E メールアドレス
info@badminton-aichi.com

西三河のバドミントン専門店

モリカズ

豊田市山之手3丁目100番地
☎ <0565> 29-0055